

3 平成 28 年度 学校評価

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>〈一人ひとりの教育ニーズに応える教育活動を組み立てる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画や個別教育計画の作成を通して、中心的な課題（ニーズ）を本人や保護者等と確認・共有する。 ・教育ニーズに応じた学習活動・学習環境を用意する。 	<p>①指導者から見た個々の児童・生徒の中心的な課題（ニーズ）を担当教員間で共有する。</p> <p>②①の確認に基づいて、本人や保護者等と中心的な課題（ニーズ）を確認・共有する。</p>	<p>①児童・生徒の実態に応じて、複数の担当者が聞き取りや行動観察を行い、部門会・ケース会等で指導内容を確認する。</p> <p>②連絡帳、電話連絡、面談、家庭訪問などで本人・保護者の意見を聞くとともに、指導方針について具体的かつ丁寧の説明し協調的な関係を構築する。</p>	<p>①児童・生徒の中心的な課題の解決に結びついたか。</p> <p>②本人・保護者のニーズに応えられたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>〈児童生徒一人ひとりの個別の課題に対する主体的な取り組みを支える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や本人との「話し合い」を教育活動のベースにする。 ・児童・生徒自身が、達成感、充実感、自信、自尊心の高まりなどを感じられる支援を行う。 	<p>①児童・生徒の主体的な取り組みを引き出すことを念頭に置き、保護者や児童・生徒との「話し合い」を個別教育計画に反映させる。</p>	<p>①児童・生徒の行動観察の中から、成長の兆しを掘り起こし、具体的な支援方法を模索し実践する取り組みを伸びる芽教育と位置づけ、個別教育計画に明記する。</p>	<p>①個別教育計画に伸びる芽教育を明記したか。</p> <p>また、伸びる芽教育側面を個別教育計画に取り入れることで、児童・生徒に具体的な成長が現れたか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>〈次のステップへの道を拓き、自己選択・自己決定を支える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒自身による自己選択・自己決定の場面設定をしていく。 ・保護者や関係機関と協力した移行支援を推進する。 	<p>①移行支援を意識しながら、学校生活のあらゆる場面で児童・生徒による自己選択・自己決定の可能性を探り、可能な限り、自己選択・自己決定の場面設定を行う。</p>	<p>①個別教育計画に基づき、児童・生徒の実態に合わせて自己選択・自己決定の場面を設定する。</p> <p>②児童・生徒の実態を考慮し、自己選択・自己決定できるような具体的な支援方法を考案し実践する。</p>	<p>①個別教育計画に児童・生徒の自己選択・自己決定の場面が記載されているか。</p> <p>②児童・生徒が自己選択・自己決定することができたか。</p>

校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月9日実施）	
達成状況	課題・改善方策等	（2月6日実施）	成果と課題	改善方策等
<p>①児童・生徒との面談や行動観察をもとに部門会等で検討を重ね、教員間で課題を共有した。</p> <p>②家庭状況に応じて、保護者面談、家庭訪問、連絡帳、手紙、電話等の様々な手段を講じて連絡を密にし、指導方針等について丁寧な説明に努めた。</p>	<p>①日々変化する児童・生徒のニーズに対応するため、今後とも、ケース会や打ち合わせ等を通じて、部門内やクラス内での情報共有を密にしていく必要がある。</p> <p>②生徒のニーズを多角的に捉え、学部やクラスとしての指導方針を教員間で共有し、保護者への丁寧な説明に努めることで、保護者とのより一層の共通理解を図る。</p>	<p>①項目を見る限りは、保護者のニーズに対しては適切な取り組みをされていると感じた。一方で難しい点があったのだとは思いますが、A・E部門において少数派ではあるが数名の方がニーズとあっていない評価なので、よりよい方策を目指していく必要があると思われる。</p> <p>②今年度から開設されたF部門については、A、B合わせて9割を超えている点は、一人ひとりの教育ニーズに応える取り組みが実践された証と言える。</p>	<p>①保護者アンケートでは、個別教育計画の作成、実施について77%の保護者が「しっかりできている」と評価し、一人ひとりのニーズに応える教育活動を組み立てることができた。</p> <p>②学習の内容や教材、授業の様子等を保護者に適切に伝えるため、教員間で一人ひとりの具体的支援や合理的配慮について更なる共通理解と支援の充実が必要。</p>	<p>①個別教育計画の作成、実施について「しっかりできている」との評価を8割以上に上げるため、引き続き本人、保護者の意見を聞く機会を設け、ニーズや指導方針について、具体的かつ丁寧な説明を心がける。</p> <p>②教員間で授業を見合える機会を設けるための工夫を行い、生徒の実態を多角的に捉え具体的なニーズに対する支援方法や合理的な配慮について情報の共有を図る。</p>
<p>①個別教育計画に記載した内容を伸べる芽教育の視点で見直したことで、授業の計画や実際の指導場面において自発的な活動を促す工夫につながり、効果的な学習活動を展開することができた。</p>	<p>①今後も生徒の成長する兆しを捉えて情報共有し、具体的な支援方法を検討実践していく。また、部門によって生徒による授業評価を活用するなどしてさらなる授業改善につなげていく。</p>	<p>①満足度が高いということは、学校主体の取組の成果かと思われる。地域の総合支援学校として情報発信が望まれる。</p> <p>②入学（転入学）に関して、一定数の保護者の評価があまりできていないとの評価がある。内容の詳細は不明だが、改善の必要があると思われる。</p>	<p>①部門によっては、生徒による授業評価を行い、生徒の意欲や伸べる芽教育の視点で、授業を見直すことができ、児童生徒の自発的な活動や学習意欲の向上が図られた。</p> <p>②更なる伸べる芽教育の視点の共有、読み取りの充実が必要。</p>	<p>①今後も生徒による授業評価を行うにあたり、評価項目の検討や振り返りシートの活用を行い、授業内容、教材、支援の方法、グループ編成等の改善を図る。</p> <p>②伸べる芽教育の視点の共有、読み取りの充実のための研修やポイントの整理を行う。</p>
<p>①児童・生徒の自己選択・自己決定の場면을個別教育計画に位置づけた。</p> <p>②授業等での児童・生徒の発言の場면을多くし、自己選択・自己決定を促す機会を増やした。</p>	<p>①個別教育計画に盛り込んだ目標や手立てを意識して、具体的な学習内容や支援方法を工夫していく。</p> <p>②児童・生徒の実態に合わせて絵カードやジェスチャーなど生徒が選択しやすい提示方法を工夫していく。</p>	<p>①保護者と教員との連携が、児童生徒達の意識づくりを協同でする必要がありと思われる。将来の進路、希望は身近かな問題であることを考えさせる指導が大切である。</p> <p>②進路指導は、自己選択、自己決定が必要。それに対し本人へのアプローチのタイミング、適性、能力、環境等の見極めが大切である。</p>	<p>①様々な場面で児童生徒の意思の表出を促すように働きかけることにより、意思表出方法の獲得や定着につなげることができた。</p> <p>②コミュニケーションツールとしてICT機器の活用が有効であるが、指導者によって活用、操作レベルに差が見られることが課題である。</p>	<p>①引き続き、児童生徒の自己選択、自己決定の場면을意識するとともに、実態に合わせた表出方法を探り、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>②ICT機器を活用したコミュニケーション方法の研修や情報提供の充実を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	<p>〈地域での学びと暮らしを支える役割を担う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援教育、インクルーシブ教育を推進する。 ・特別支援学校としての専門的なノウハウを共有・蓄積し、広く提供する。 ・地域の生活・医療・仕事・教育等に関する相談支援体制に寄与する。 	<p>①地域の小中学校に加え、高等学校の巡回相談に積極的に取り組む。</p> <p>②地域に向けた研修会等を開催し、センター的機能の充実を図る。</p>	<p>①教育相談コーディネーター会議などを通して地域の高等学校に対する相談体制の周知に努める。</p> <p>②地域の学校の職員向けに研修会を行い、特別支援教育に対する理解を深め、教育相談を充実させる。</p>	<p>①高等学校との新規の連携ができたか。</p> <p>②研修会の外部参加目標数100人。アンケートにおける肯定的評価80%以上。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>〈保護者・生徒・教員が協力して、安全で安心感のある学校を作る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育部門小・中学部・高等部の開設と知的障害教育部門高等部の拡充に伴い、児童・生徒や保護者の不安を解消し、安心して通学できるような開設準備をめざす。 ・じっくりと教育活動に取り組めるゆとり感のある校務活動に取り組んでいく。 	<p>①肢体不自由教育部門の開設と知的障害教育部門高等部の拡充に向け、完成年度の姿を具体的に想定しつつ、着工に向けた準備に当たる。</p> <p>②学校規模に見合った校務分掌の見直しを行う。</p>	<p>①完成年度の児童生徒像を具体的に想定し、神奈川県教育委員会、平塚養護学校、秦野市、秦野市教育委員会、神奈川病院、近隣住民の方々などと連携を取りながら、着工に向けた準備に当たる。</p> <p>②企画会議等で課題を出し合い、6部門体制に相応しい体制、将来の7部門体制にも耐えられる指導體制、業務執行体制を構築する。</p>	<p>①着工に向けた準備が遅滞なく計画され実施されたか。</p> <p>②学校の抱える課題に見合った分掌の再編ができたか。</p>

校 内 評 価		学校関係者評価 (2月6日実施)	総合評価 (3月9日実施)	
達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
<p>①県立秦野総合高等学校定時制と連携ができ、研修会(1回)、継続的な巡回相談(2回)を行った。</p> <p>②夏季休業中にインクルーシブ教育に関する4回の公開研修会を実施した。</p>	<p>①巡回相談のケース会議のときに関係するSSW、SCなども加わると、より具体的な支援策につながると思われる。</p> <p>②4回の研究会のべ215名の参加者があった。同様の研修会を継続してほしいという要望があった。</p>	<p>①特別支援学校として、専門的ノウハウの共有を広く提供し、地域の生活等、相談支援体制に寄与、関連機関と連携した活動となることを期待している。</p> <p>②学校の情報発信のツールとして、学校のホームページがあるが、閲覧する側に立った視点、情報(内容)発信の工夫が必要であると思われる。</p>	<p>①高等学校に在籍する支援が必要な生徒への対応について、高等学校の担任等と連携した相談支援を行うことができた。</p> <p>②支援教育に対する地域のニーズに応えるため、情報の発信の方法や支援のあり方、内容等についての検討、整理が必要。</p>	<p>①今後も地域の学校の職員向けの研修会や様々な機会を通じて、支援教育に対する理解や学校間の連携を図る。</p> <p>②特別支援学校のセンター的機能を広く周知するためのホームページの見直しや具体的な支援や相談要請に対して、学校全体で対応するための方策について検討する。</p>
<p>①再編整備に向けたプロジェクトチームを立ち上げた。</p> <p>②分掌業務の再編のため、現行業務の見直しと新たな業務の洗い出しの必要性を確認できた。</p>	<p>①円滑な業務遂行のためプロジェクト会議の構成や持ち方について検討が必要。</p> <p>②分掌業務の再編や業務過重にならないためのグループリーダーやサブリーダーの役割、位置づけも併せて検討が必要。</p>	<p>①防災への対応が他と比べて数値が低いと感じた。熊本地震での報道もあるかと思うので、次年度の課題として取り組んで欲しい。</p> <p>②個人情報の取扱いについて、Eの保護者3名とAの教員1名が「あまりできていない」と評価。どの辺りがどのように感じるのか、対策を検討する必要があると感じた。</p> <p>③校舎の工事はもちろんだが、今後どのような教育に変わっていくのか、情報をできるだけ開示して保護者や本人の不安を解消してほしい。</p>	<p>①再編整備に向けた準備を円滑に進めるため、開設準備プロジェクトを立ち上げた。</p> <p>②グループにより業務の過重があり、一部の教員に負担がかかってしまった。</p>	<p>①再編整備に向けた準備を滞りなく進めるために、開設準備プロジェクトの適切な進行管理に努める。</p> <p>②グループ業務の業務量、分担、配置人数等の見直しを行い、業務量の平準化を図る。</p>